

# 提出された意見の概要及び意見に対する考え方

No.	意見の概要（趣旨を捉え集約したもの）	意見に対する考え方（対応など）
1	覚満淵のグランピング施設に反対。	覚満淵及び小沼は自然環境の保全を図るエリアとして整備は行いません。
2	小沼のキャンピング・グランピング施設に反対。	
3	赤城山の良さは手つかずの自然がそのまま残されているところであるため、整備するエリアと保全するエリアを分けてほしい。	「利活用エリア」と「保全・保護エリア」にエリア分けしました。
4	カタカナ・造語などが多く、表現や表記が分かりにくい。	語句の注釈の追加、分かりやすい日本語の言い回しに改正しました。
5	自然環境教育の場としての利用の目線が必要。	自然環境教育の場として利用促進を図っていきます。類似する公園の先進事例等を参考にしながら、今後検討していきます。
6	老朽化したバンガロー村などを再開発して利用できないか。	バンガロー村などは民地及び県有地を占有して、民間事業者が事業を営んでおります。今後活性化のため民間事業者には協力を求めています。
7	赤城温泉郷に至る県道16号線の道路改良に予算を投じてほしい。	この活性化事業による効果を見ながら、赤城公園に至る交通環境の整備を検討していきます。また社会情勢も見ながら電気自動車等を利用した環境に優しい施策も検討していきます。
8	マイカー利用を前提とした交通体系でなく、周辺地域と公共交通機関でどう繋ぐのか、利用の便をどう確保するのか検討する必要がある。	
9	公園内を電気自動車で繋いで利用しやすいようにしてはどうか。	
10	小沼のバイオトイレは匂いや見た目がきついで、改善を図ってほしい。	小沼のトイレ問題はこちらも把握しており、改善を検討していきます。
11	冬期の道路は凍結し交通渋滞や事故が多発しているため、道路情報の発信や頻回の除雪作業が必要。	赤城公園周辺の積雪情報や道路ライブカメラは、群馬県HPの「群馬県県土整備部防災情報」（下記URL）で情報発信しております。また除雪作業も降雪状況により道路管理者が実施しております。 <a href="https://www.kendobousai-gunma.jp/gismap2/admin.html">https://www.kendobousai-gunma.jp/gismap2/admin.html</a> こちらからのお願いとして、赤城山は積雪寒冷地となりますので、早めの冬用タイヤ着用をお願いいたします。
12	山頂エリアだけに絞った構想には限界があるので、赤城山周辺市町村や周辺施設（道の駅など）との連携を考えてほしい。	この構想は赤城公園に限ったものとなりますが、施策展開として赤城山周辺市町村と協力し、赤城山全体の活性化に繋がるよう進めていきます。
13	赤城山は標高1,360mであり、定住者のいる観光地としては県内で最も標高が高く、冬期は草津以上の厳しい寒さになり、通年営業は難しいため、専門的な知識を持った業者でないと通年営業は無理と思われる。	厳しい自然環境を考慮した施設整備（設計・工事）、また運営・管理ができる専門的な民間事業者を選定していきます。

# 提出された意見の概要及び意見に対する考え方

No.	意見の概要（趣旨を捉え集約したもの）	意見に対する考え方（対応など）
14	利用者には環境保全協力金をお願いし、人の活動と自然への負荷、共生と保全を共に考える、一方的な利用に終わらせないでほしい。	自然環境の保全・保護、登山道などの施設維持のため、入園料、駐車場やトイレの有料化、木道整備協力金などの導入により維持管理費を確保することを今後検討していきます。
15	駐車場・トイレ・登山道などの維持管理が悪く、利用料を徴収することもやむを得ないのではないか。	
16	滞在して楽しむためのメニュー（アクティビティ・食・宿泊など）が少なく、大幅に充実して欲しい。	新たな民間事業者を招くことで、赤城の自然環境や魅力が体験でき、各シーズンに合わせたアクティビティ・食・宿泊などの充実を図っていきます。
17	日本ではキャンプスタイルが多岐にわたるため、スタイル・制限事項を設け、環境負荷に配慮したサイトとすることが必要。	現状の課題や環境への配慮を整理し、先進事例などを参考にキャンプフィールドの設計を行っていきます。
18	ランニング、登山は、素晴らしい自然アクティビティの資源だが、その視点がない。	ランニングや登山など、現在も多くの方が楽しんでいるアクティビティ資源を活かし、イベントや大会の開催等に積極的に取り込んでいきます。
19	赤城分校跡地のグラウンド・体育館、赤城少年自然の家などの前橋市施設の利活用も検討してほしい。	この構想は県と市の協同事業であり、これらの施設を管理する前橋市と利活用方法を検討していきます。
20	尾瀬のように「ゴミ持ち帰り」の徹底が必要。	赤城公園の自然環境の保全・保護のために、マナー啓発による「ゴミ持ち帰り」の徹底をお願いしていきます。 また、キャンプフィールドの拡張によるゴミ問題について、民間企業による管理人常駐の有料化を予定しております。こちらも併せて利用者のマナーの向上も合わせて図っていきます。
21	キャンプ場やアウトドアでのゴミ問題はどうか対応するのか。	
22	身障者達への配慮を施せば、ファミリーの集客効果が期待でき、一般客や障害者達のリラックス効果を目指した宿泊施設に変えたらどうか。	様々な方々にご利用いただける公園となるよう、今後の施設整備の設計の中で配慮していきます。
23	シカによるウスバサイシンの食害により生息数が激減し、絶滅の危機にあり、今回の開発によりシカの山頂部からの拡散を懸念している。山頂開発による周辺部への影響をどのように評価されているのか。	赤城山頂部にある鳥獣保護区内のシカ駆除は進めています。生息域が拡大しないよう経過観察しながら、対応を検討していきます。
24	都市部から近く、登山としても難易度は低めなので、高齢者や子供も安心して連れて行けるのが赤城山の魅力。よって、過剰な施設や今以上に人が増えることは現在の赤城山が持つ魅力を損なう。	この構想では、既に開発されているエリアでの施設整備を利活用することとしています。ビジターセンターやキャンプ場のリニューアルなど、既存施設の再整備と遊休地の利活用を行い、現在の赤城山が持つ魅力を損なわずに活性化していきます。

# 提出された意見の概要及び意見に対する考え方

No.	意見の概要（趣旨を捉え集約したもの）	意見に対する考え方（対応など）
25	観光や環境保全には、今までも大洞地区に居住する人たちがかかわってきているが、これまで携わっている人たちとの関係が見えてこない。	地元・大洞地区の住民及び事業者の方々とは適宜意見交換し、この構想を策定してきました。活性化事業には地元の方々の協力は必須となりますので、今後も適宜意見交換を行いながら協力して進めていきます。
26	大洞商店街の活性化策はどう検討されているのか。	
27	赤城山の様々な魅力を味わう縦走コースを設定し、要所に売店や宿泊のできる山小屋、トイレなどを整備してほしい。	赤城公園における登山やハイキングは重要なアクティビティの一つをして捉えており、アクティビティ事業の充実を図る中で、地元事業者と連携できるプランを検討していきます。検討を進めるに当たり、首都圏近郊で類似する山々の事例も参考にしていきます。
28	魅力有る観光地に向けて現状で足りない物を原点から見つめ直しが必要ではないか。お金を落とせるポイント、店、スポットが足りなく、インパクトの薄さや目玉が無い。	構想の策定にあたり、地元や自然環境団体の方々とは赤城公園の魅力や大切にすべきものを話し合いました。赤城でしか味わえないものに磨きをかけて、赤城公園の魅力を発信していきたいと思っております。
29	赤城山山頂が観光客の減少でその良さを十分活用できていない現状に県として対策を講じるということに期待を持っている。	実現できるよう、皆さんと協力し進めていきます。
30	今回の県立赤城公園の活性化に向けての動きは大変楽しみにしている。県民の一人として、応援したい。	
31	慣れていない山を知らない観光客が来て、簡易な建物で宿泊するのはリスクが高過ぎる。天候判断もできないような観光客を引き入れるべきではない。	構想では、キャンプフィールドを管理人常駐の有料キャンプ場とする予定です。そこでは、キャンプ道具のレンタルからスタッフによる設置まで対応するサービスを予定しており、初心者から上級者までが楽しめる公園としていきます。
32	赤城山だけに特化したアプリをダウンロードしてもらうのはなかなかハードルが高い。既存アプリと連動するなどの方が現実的。	前橋市が進める「デジタルグリーンシティ前橋」のまえばしIDの整備状況を見ながら、既存アプリとの連動も選択肢の一つと考えていきます。
33	赤城山の継続には資金がかかるため、ファンや民間企業からのサポート方法が分かりやすく、地元団体への委託業務の成果の進捗がオープンになる意味で、ファンドなどを活用してはどうか。	民間資金の受入方法の一つとして検討していきます。
34	ビジターセンターは役割を果たしているとは言い難い。	再整備する施設の運営・管理は、これまでの公営から民営へ移行し、民間事業者によるノウハウやサービスを取り込み、利用者のサービス向上を図っていきます。
35	施設ができて運用する側の意識改革が必要であり、受け身の客は飽きも早くリピーターにはならない。	
36	森林地域、空気がきれいなところまでアンテナを立てられてしまうと困る。	景観の規制を今後検討していきます。

# 提出された意見の概要及び意見に対する考え方

No.	意見の概要（趣旨を捉え集約したもの）	意見に対する考え方（対応など）
37	首都圏からのお客が来るとの見込みだと思うが、数年は賑わっても、すぐ来なくなって、リピートはしない。	構想では、公園内の自然環境を保全・保護のうえ、遊休地の再利用や老朽化施設の再整備を行い、持続可能な公園の管理・運営を実現していきます。事業の進め方も3ステップによる段階的で継続的な事業展開により、群馬県民の愛する赤城山となれるよう、全力で進めていきます。
38	全体的に思うことは、目先のお金に目が眩んでるとしか思えない。	
39	グランピングやアウトドアブームはあるがごく一部の消費動向で、しかも一過性の流行。	
40	「調査・分析」の現有施設の課題をクリアして「構想アイデア」の内容を取り入れることを希望する。	
41	観光客10万人増の根拠がない。整備後の収支の中身がわかりにくい。	全国的に地方創生事業を展開してきた民間企業の実績を基に算出したものです。管理・運営方法は、これから民間活力導入可能性調査を実施の上、最適な管理・運営方法を選択し、県予算負担の削減を図っていきます。
42	民間が行うと採算性を必ず考えるので、その考え方を取り入れてほしい。	
43	最低20年くらいの期間の維持管理費や売り上げなどの推移を想定し、売り上げが最悪の想定の時はどうなるか試算したほうが良い。	
44	みなかみ町にも「谷川岳インタープリター」という制度があり、ビジターセンター等で来訪者を案内している。アウトドア産業や宿泊業が盛んだが、それでも人材不足等課題は多くあり、長期的に事業を支え、マイスターの募集や育成などをけん引する主体が必要。	地元の住民や事業者に「地域マイスター」として協力してもらうことを施策に位置づけており、先進事例を参考にしながら取り組んでいきます。
45	赤城にはストーリーやオリジナリティが必要。	赤城に関する歴史や自然環境などを踏まえ、赤城独自のストーリーやオリジナリティが出せるような施策を実施していきます。
46	駐車場の使い方や路上駐車が問題。それぞれのエリア間の移動に使えるバスがあると便利。	春の開花時期や秋の紅葉時期など、駐車場の不足により路上駐車が増加していることは問題として認識しており、今後遊休地の駐車場利用（一時的）や移動手段の充実を検討していきます。
47	11月の紅葉シーズンは、駐車場が満車で仕方なく帰る観光客や登山者がいる。	
48	本構想は「国立公園満喫プロジェクト」の事業内容ともよく似ている。国の構想の影響を反映したものという印象を受ける。	国の構想と直接関連するものではありませんが、県立公園も国立公園と同様に保全と利用による持続可能な公園管理・運営を求められており、このことは構想策定の問題意識となっています。
49	スキー場があり、北アルプスを控えて登山客やその他施設も整っている白馬村と赤城山地区とでは条件が異なっている。	条件は異なっているものの、全国的に地方創生事業を展開し実績のある民間企業のノウハウをアドバイスいただきながら、赤城公園の活性化を図っていきます。